

令和6年1月30日

奄美市長 安田 壮平 殿

奄美市総合計画審議会
会長 恵上 イサ子

「奄美市最上位計画」の策定について（答申）

令和5年6月5日に本審議会に諮問された「奄美市最上位計画の策定に関すること」について、下記のとおり答申いたします。

記

本審議会においては、3回にわたり審議会を開催し審議を重ねてきた結果、別添の案のとおり新たな最上位計画を策定することを全会一致で決したので、以下の意見を添えて答申いたします。

（意見）

まず、令和6年1月1日に発生した能登半島地震でお亡くなりになられた方々に、哀悼の誠を捧げますとともに、早期の復興を心から祈念申し上げます。

本審議会においても、本市における大規模な地震や津波被害への備えの必要性を強く再認識したところであり、市当局にあっても、行政及び市民が一体となった減災・防災への取組強化を改めて求めるところです。

新型コロナウイルス感染症のまん延や奄美大島の世界自然遺産登録等、本市を取り巻く社会情勢が大きく変化する現在にあって、新たな最上位計画の策定にあたっては、市民と行政の対話による奄美市づくりの基礎を形作るものとすべく、従来の計画のあり方にとらわれず、市民にとって分かりやすく思いを共有できる計画であることを念頭におき、計画策定をゴールではなくスタートラインとする「未来を担うこどもたちのための計画」とすることを求めてまいりました。

これを受け、市当局においては、本審議会や官民間問わず様々な職種、世代で構成される5つの分科会をはじめ、高校生アンケートや骨子案及び計画案の2度にわたるパブリックコメントの実施など、市民意見の聴取・反映に努め、計画の策定に努めてこられました。本計画には、本市で生活する市民の生きた声が反映されているものと評価する次第です。

本計画策定後についても、広報紙や出前講座、小中高校における学習などの機会を捉え、本計画の周知に努め、引き続き、市民一人ひとり、企業団体が自らのこととして、よりよい奄美市とするための活動を促進する環境づくりに努めていくことを求めます。

奄美市合併から18年。これまで築き上げてきた実績を礎に、この度策定する『奄美市総合計画「未来の奄美市づくり計画（通称：奄美市未来計画）」』に基づく施策を官民の力を結集して推進していくことで、よりよい奄美市となることを期待いたします。

以上